

東京都総合教育会議 登壇資料

AI時代の組織の形と 身につけていくべき能力

2025年10月16日

株式会社LifePrompt 代表取締役 遠藤聡志

はじめに：自己紹介



遠藤 聡志

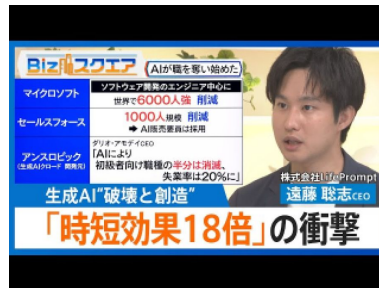
株式会社 LifePrompt 代表取締役

経歴

- 2021年 東京大学工学部卒業(大学院在学中)
- 2022年 経済産業省 未踏アドバンス事業 採択
- 2023年 株式会社LifePrompt創業

メディア出演

- 日本経済新聞
- 共同通信
- テレビ朝日
- TBS 他



はじめに：自己紹介

株式会社LifePromptでは、AIの企業導入を支援しています

AIエージェント構築

- 1: 業務フローを理解し、タスクを分解・設計
→AIが適切な判断とアクションを実行
- 2: Slack・メール・Zoomなどツールに自然に介入
→人間と同じように業務の中でやり取り
- 3: 指示待ち型ではなく、目的起点で自律的に動く
→ゴールを理解して、自ら行動する存在



データ整備

- 1: 部門ごと・職種ごとの情報アクセス権を制御
→必要な情報だけを安全に利用できる環境を構築
- 2: 社内ドキュメント統合・形式統一・メタ情報付与
→AIが理解しやすいデータ構造で精度を高める
- 3: 「誰にどこまで見せるか」を制御する権限管理
→出力品質と安全性を両立した AI運用を実現

AI AGENT が、あらゆるデータと業務を横断し、自在に動き回る

多くの日本人に親しみのある「大学入試」という指標でAIの性能を評価

- 2023年7月：共通テスト
- 2024年1月：共通テスト
- 2024年3月：東大本試験
- 2025年1月：共通テスト
- 2025年3月：東大本試験

➡ 東大レベルの頭脳を誰でも安価に雇える時代の到来

AIと共存することを見据えた教育が求められる

- 異和を見逃さず、改善しようとする意志を育むこと
- 新しいものを恐れないこと
- 基礎教育に正面から取り組むこと（言語化・論理的思考）

企業における使い方の変化

生成AIが「頭脳」として使われはじめています。

単発のタスク

- 議事録作成
- 要約
- メール作成
- チャットボット
- 検索



自律的に複雑なタスクを思考・実行

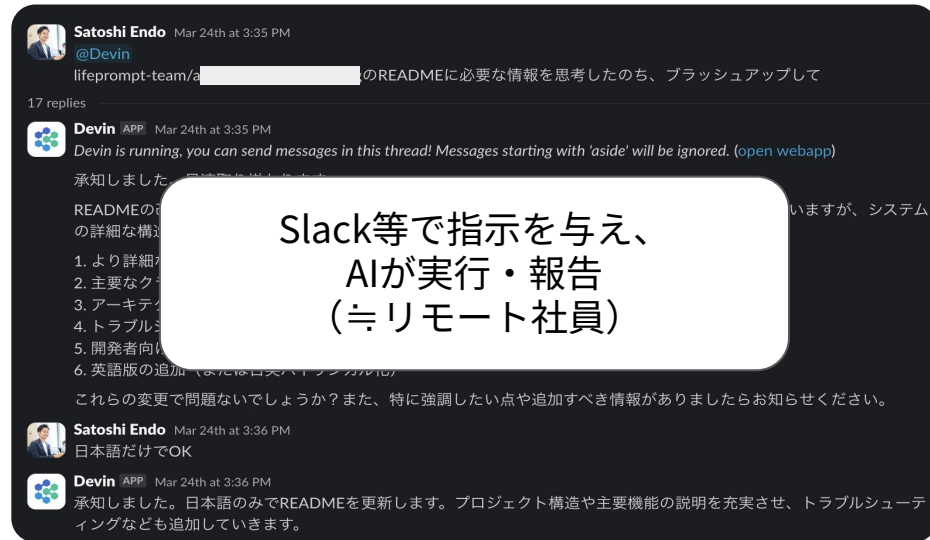
1. ゴール設定
2. プラン設計
3. 実行
4. チェック
5. 完了判定



プログラミングにおける使い方の変化



個人の拡張からマネジメントへ、役割が変化（この2年）

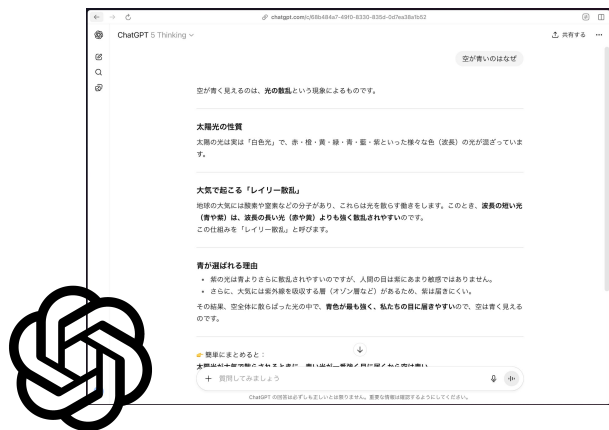


「読む/考える/書く」が加速

仕事を依頼する

AI時代の組織とは

AIを「リモート社員」のようにとらえ、一緒に働くということ



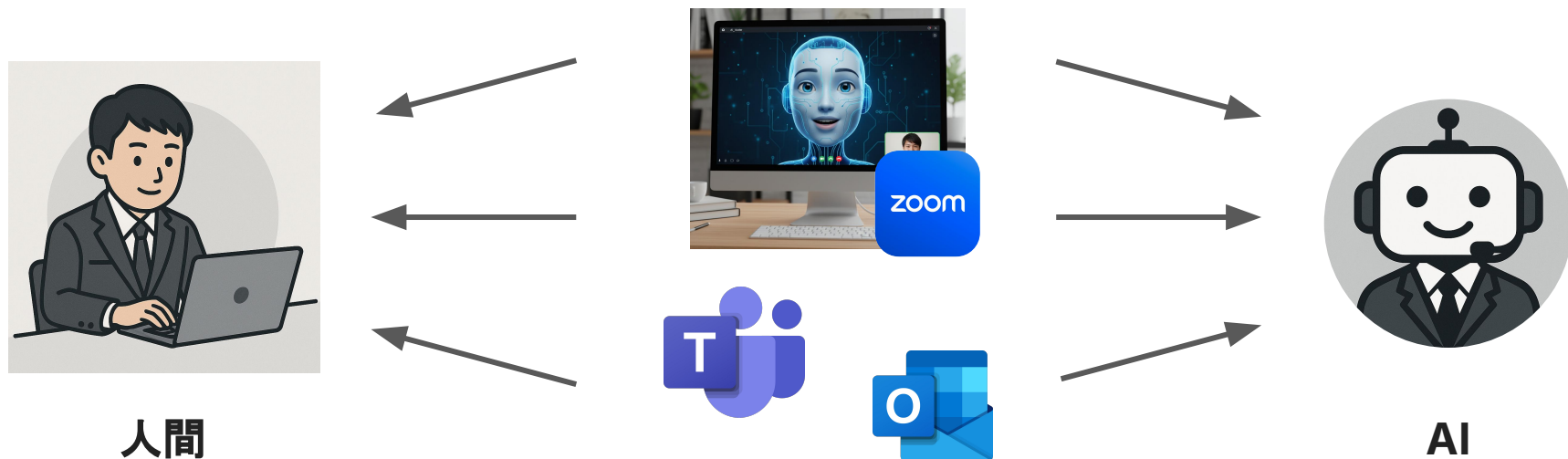
「聞ける」AI



「はたらく」AI

AIとのコミュニケーションも変化

AIとのやりとりは複数箇所から（人間が複数の連絡手段を持つと同じ）



下積みという猶予ゼロで「AIを率いる」時代に適応する能力が必要となる

- 異和を見逃さず、改善しようとする意志を育むこと
- 新しいものを恐れないこと
- 基礎教育にきちんと取り組むこと（言語化・論理的思考）

怒り - 問を立て、推進する力

人間の力は現状を打破したいと思えること

- 過去の発明は現状をよりよくしたいと考えた結果
- これまで抑圧されてきた「不満を持つ力」を「問いを立てる力」に



使う – とにかく触れて、慣れる

新しいものを恐れないこと。包丁と同じく、使い方がわからない方が危険

- ルールを決めて小さいところからはじめて、慣れていく
- 大人もしっかりと触れて、ルールを制定できるようになる必要
- 包丁やネット、お金などと同じ

飲まれない – 基礎的な思考力を身につける

国数理社という基本的な科目、特に国数の重要度が高い

- 自分の思考をきちんとAIに伝え、話を鵜呑みにしない
- 長文の要点を正しくとらえ、表現する国語力
- 問題を正しく切り分ける数学力



AIと共存することを見据えた教育が求められる

- 異和を見逃さず、改善しようとする**意志**を育むこと
- 新しいものを恐れないで**使う**こと
- **基礎教育**に正面から取り組むこと（言語化・論理的思考）